遠くて寒い国から来た私

文・写真　ウルシュラ・スティチェック
(Urszula Styczek)

Dzien dobry!（ヂェニ・ドブィリ）「こんにちは！」とポーランド語であいさつしてみよう。発音は少し難しくて、英語やドイツ語と違い親しみのない言葉だろう。最も近いのはロシア語で、西スラブ種族の言葉の一つだ。

はじめて六年前に日本に到着した時、ポーランドと日本との間の距離がさまざまな意味でまだ遠いと感じた。

当時、短期間の観光で日本に来て、ヨーロッパ人の眼と心でアジアをもっと深く理解しようと思った。なぜかというと、私はワルシャワ大学の日本学科を卒業したが、学生時代にはほとんど日本人と接触するチャンスがなく、教科書か教師の話か黒沢明監督の映画だけから日本のイメージを作り上げていたからだ。

それから一年半後に広島に留学することになって、とても嬉しかった。青年時代に「日本」を自分の運命に選んだ私は、今度は日本に長期の滞在をすることになった。

どうして「距離が遠い」かと言うと、互いの文化はあまり知られていないような気がするからだ。

私が日本語を勉強し始めた頃、研究のための資料や教科書、辞典は少なくて、日本人の姿はワルシャワでめったに見られなかった。どうやって正しく日本語を話せばいいか、どこから資料を手に入れればいいかというような悩みが多かった。それにもかかわらず、渇望的に日本の文化、言葉を勉強したかった。幸いに、大学に入学する前に十七歳の私は日本の女性と文通をし始めた。当時これは非常に珍しいことだった。彼女の手紙のおかげで私の関心は深まり、いつか日本へ行くことを夢見た。

ワルシャワ大学（ワ大）では日本語だけでなく、歴史、地理、文学の講座があり、三年生になって、自分の研究の専攻を決めなければならなかった。私は日本文学を専攻した。現代文学、特にポーランドで一般の人には知られていない「原爆文学」の研究をすることを決めた。しかも私は、ほとんど日本人にとっても未知の作家である原民喜の研究に専修した。

五年生の時に私たちの日本語の先生は広大の教授である水島裕雅教授だった。今でも運命的な出会いだと思うが、当時広大に留学するとは夢にも思わなかった。

そしておよそ四年間が経ち、社会人になって、ワルシャワ日本人学校の講師として、日本を旅行する時、ちょうど原爆投下の記念日である八月六日に広島を訪れて、水島教授に歓待された。先生の大変な努力のおかげで翌年の秋に広大に留学することになった。現在、博士後期の院生で、原民喜の戦後文学だけでなく、『近代文学』という戦争直後に出版されていた雑誌を中心にしながら、ポーランドの「強制収容所の文学」等と日本の戦後文学を比較し研究を続けている。

日本学科の専門家として本からばかり勉強するのではなく、日本全国を旅することもある。そういう時、最初にいつも「どこの国から来ましたか」という質問をされる。「ポーランドから」と答えると、必ず「遠い国」か「寒い国」という反応が出てくる。日本より寒いかなと考えてみると、確かに北海道よりずっと北の方だが、東北の仙台の周辺あるいは最近は東京とあまり変わらない気候だと言えるだろう。それでも「寒い国」だと思いますか？

また、「遠い」と言う点では、距離的には西ヨーロッパより近いし、米国との距離ともあまり変わらないだろう。

さて、なぜこのようなポーランドのイメージが生まれてきたか。それは前に書いたように、「互いの文化が知られていない」からだ。地理的な距離の遠い国でなく、文化、文学、歴史、言葉のほとんどが知られていない国だからだろう。

さらにポーランドの社会主義時代に両国の外交の関係が浅くて、政治的な障害によって互いの国についての教育は充実してはいなかった（他の東欧と中欧の国家と同様だった）。

私も日本について勉強を始めた時、「世界の果てにある程遠い国」、「非常に暑い国」或いは「雪は絶対降らない国」のイメージしか持たなかった。今はもちろん逆、日本は心の中では二番目の国になり、故郷のような感じがしている。

ところが、まだポーランドからの留学生の数は少なくて（現在は一人しかいない）、学術面での交流も深くはない。しかし新しい時代に向かって、より多く互いの留学生の数が増えるはずだと思う。喜ばしい現象としては、ポーランドに留学する日本人は、最近はピアニストだけではなくポーランドの文学、歴史、農業、言語に関心を持っている留学生が増えている。

身近な例を上げれば、ポーランドの十八世紀半ばの歴史を研究している広大文学部の院生が、来年の秋にポーランド留学を希望している。

私が日本で日本の文化を学ぶのと同じように、日本人は向こうでその文化を研究して、両国のメッセンジャーとして大切な役割を果たすことが期待される。「ポーランドは寒い国」あるいは「日本人は皆着物を着る」というような正しくない固定観念を崩して、両国がお互いに理解しあうためにも留学の一つの意味があると思う。

「日本もやっぱり寒い」

プロフィール
◇ポーランドのワルシャワに生まれる
◇一九八七年　ワルシャワ大学新言語学部東洋学研究所　日本学科卒業
◇一九八七～九一年　在ポーランド日本国大使館付属ワルシャワ日本人学校講師
◇一九九一年　広島大学総合科学部比較文化研究講座研究生
◇一九九三～九五年　同大、社会科学研究科国際社会論専攻、博士課程前期
◇一九九五年　同大、同科、博士課程後期入学

エジプトについて

文・写真　マフムド・マゼド・サラー
(Mahmoud Maged Salah)

世界最古の国エジプト

国の歴史は七千年前に始まりましたので、エジプトといえば世界で一番古い国です。

アフリカの北東にあり、土地は日本の約三倍、人口は六千万人です。国の言葉でミスルと言いますが、フランスの占領時代からエジプトとなってしまいました。昔からエジプトに住んでいた人々は〝フェロス〟と言います。フェロスはハイログレフェクスを使いましたが、現在ではアラビア語が国の言葉になりました。

フェロス時代には、ヘブライの指導者〝モーゼ〟がエジプトに来ました。しかしながら、フェロスの多くの人々はモーゼを信じませんでした。そのため大きな台風でみんな命を落としましたが、モーゼたちだけが助かりました。

その後イエス・キリストと母親がエジプトの地にやって来ました。それからエジプトのキリスト教時代が始まりました。最後にはイスラム教時代が始まったので、今日までエジプトはイスラム回教国になりました。

世界の宝の宝庫エジプト

エジプトの歴史を見ればすぐにわかりますが、なぜかエジプトではいろいろな違う文化と遺跡があります。たとえばフェロスが造った物は今でもたくさん残っています。ギザにはピラミッドとスフィンクスがあります。ルクスルでも王と女王の谷があります。また、ローマ時代からアレキサンドリアではアントンヤデス記念公園があり、イスラム時代からの建築術の美しさを誇っています。

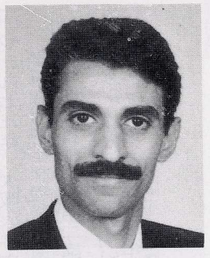
その他の有名な所は、世界で一番古い大学「アルアズハル」があります。そこには温泉や美しい海岸線や珊瑚などいっぱいありますので、ぜひエジプトを見に来てください。本当にエジプトは世界の宝の宝庫です。

コミニュケーションには外国語の勉強が一番

日本へ来たばかりの頃は、日本語が全然わからなかったのでちょっとがっかりしました。しかし、真面目に勉強したのでだんだん上手になったと思います。日本語は初めてだったのですが、本当に難しいと思います。

私の友人の留学生の一人は「漢字」が嫌いらしく、私は彼の症状を「KANJI PHOBIA」と新しい病気の名前を作りました。外国語を勉強しないとコミュニケーションはできないと思います。私は日本語を一生懸命勉強したので、日本の文化についてもだんだんわかるようになりました。たとえば、茶道や生け花や歌舞伎や相撲などがわかりやすくなりました。コミニュケーションをはかるにはその国の言葉を勉強するのが一番です。

最後になりましたが、私の国について興味深いことを少しばかり紹介させていただきました。



プロフィール
◇エジプトのアシュト出身
◇一九六〇年生まれ
◇一九八四年アシュト大学卒業
◇一九八九年アシュト大学修士課程修了
◇一九九二年アシュト大学博士課程進学
◇一九九四年から日本留学　現在原爆放射能医学研究所血液内科に所属